

児童文化科学館の論点

※委員会で提出された主な意見を北九州市新科学館基本計画の項目を参考にして、正副委員長において整理したもの。

1 立地場所、施設規模(整備)などについて

- 公共施設マネジメントにとらわれることなく、子供が科学への関心を持てるような施設整備を検討されたい。
- 日本一や西日本最大など話題性があるような施設にされたい。
- 修学旅行生などが訪れるような集客力のある施設にされたい。
- イオンモールに建設される新施設とK I G Sの動線を検討されたい。
- 休憩所や食事スペースなどイオンモールとの連携を図られたい。
- 入場料など費用対効果を検討し、収益性の高い施設にされたい。

2 新科学館の名称(愛称)について

- 所管事務調査においては特に意見なし
※本会議質問等を受け、令和元年8月に新科学館基本計画に同項目を追加。

3 展示活動について

- 地元の子供が何度でも訪れるような施設を検討されたい。
- 藤田哲也博士を顕彰するコーナーの設置は意味があると考える。
- 子供の科学に対する興味や関心を育てるコンセプトを具体化できるようなものを検討されたい。
- ターゲットをある程度絞って、展示内容や体験型の施設を検討されたい。
- 面白い展示内容にして、どんどんリニューアルされたい。

4 プラネタリウム活動について

- プラネタリウムのドーム径については少なくとも30メートル程度にはなるよう努力されたい。

5 教育普及活動について

- 科学が好きで、自ら問題解決ができる子供を育てる施設にされたい。

6 企業や大学、市民など関係団体等との連携、協働について

- 八幡東区の自治区会や住民に対する説明会の機会なども設けられたい。

7 東田地区内の博物館群との連携について

- 周辺の博物館等との共通入場券などの創設を検討されたい。

8 運営体制のあり方について

- 専門的な人材の確保の観点からも、長期的な運営体制が必要であり、指定管理者制度はなじまないのではないかと考える。
- 直営による運営を検討されたい。
- 学芸員の確保を図られたい。
- K I G Sを含めた一体的な運営について、それぞれの役割を明確にした上で、具体的にしっかり検討して対応されたい。

9 その他

- 今まで児童文化科学館で行ってきた児童文化の事業については、こども文化会館の活用なども含めて、そのあり方について検討されたい。
- 国庫支出金の活用等国へ要望すべきことがあれば相談されたい。